

整理番号 28-4
補助事業名 平成28年度 I C T 社会における安全・安心確保に関する補助事業
補助事業者名 一般社団法人日本教育情報化振興会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

平成28年度事業は児童生徒の I C T 社会を明るく照らすための方策として

1. 情報モラル指導充実のための事業では、ネット社会の歩き方講師育成セミナーを実施し情報モラルに関する教員の指導力の向上と「ネット社会の歩き方」教材を活用した授業の展開等について普及啓発を実施した。
2. 情報モラルセミナーを受講した教員が各地域、学校に戻り校内研修、生徒への指導や保護者会での指導を行った際に、受講者の理解度を測るためのテスト「情報モラル指導評価指標」を作成し、これをもとに授業の際の理解度評価のテストを開発する。また、児童生徒は学校で指導を受けた内容を自宅に帰ってから復習することができる教材を開発した。
3. 新たな時代を生き抜く児童生徒はコミュニケーション力向上が求められている。I C T 社会におけるコミュニケーション力の育成を学習活動の中でどう取り込んで行くか、その取り組みを支援する。より多くの方々に受講していただくため、セミナー会場に地域の教員を集めて、基調講演、模擬授業の実施、総括パネル討論を行うなど、教育委員会と教職員に対象を広げ、「コミュニケーション力育成セミナー」を実施する。児童生徒が相手に自分の気持ちを正しく伝えるために、相手の意見を聞く態度を育てるための教育はどのような段階を経て育てていくべきなのか等、児童生徒の成長に合わせた指導法を普及・啓発する事業を実施した。平成28年度はより多くの方々に受講していただくため、教育委員会と教員を対象を広げ「コミュニケーション力育成セミナー」を開催した。

ネット社会の歩き方講師育成セミナーの実施、情報モラル指導指標テストの作成、コミュニケーション力育成セミナーの実施を通じ、児童生徒が I C T 機器の影の部分を知り、自らの力で安全安心な情報化社会を過ごせることを目標としている。

(2) 実施内容

教育現場の I C T 安全安心対策検討委員会にそれぞれのワーキンググループ長を委員とした委員会を置き、そこに下記の3つのワーキンググループを設置し、それぞれの研究方法により I C T の安全安心活用について研究を実施している。

① 情報モラル指導充実のための事業

(<http://www.japet.or.jp/ActivityReport/netwalk/>)

地域の指導的な立場の教員に対し情報モラルが指導できるよう指導者育成を実施、主に情報モラルやセキュリティに関するセミナーを実施できる指導者を養成、その指導のための教材としてセミナーで使用した教材・情報を提供、さらに家庭等でも「情報モラル」が親子のコミュニケーションの題材となるような新たな事例への対応を盛り込んだコンテンツ等情報の提供を行っている。

ネット社会の歩き方教材 (<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>)



教材はこんなことをしてはいけないよ」と教えるのではなく、「なぜ、こんなことになってしまったのか皆で話し合おう」というオープンエンドの教材が多く、児童・生徒に少しでも考えさせる場面を提供することを狙っている



スマートフォン等でのセキュリティ管理の重要性などを解説しているWebコンテンツ。

ネット社会の歩き方講師育成セミナー（12カ所での開催）



（講 義）

（ワークショップでの話し合い）

② コミュニケーション育成のための事業

<http://www.japet.or.jp/Case/21ccom/>

言語は、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であり、子どもの人間性の成長に深く関わっている、そこで、これからの「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」を、学習活動の中にどのように取り込んでいくか、その取組を支援する研修を企画し、全国で実施した。今年度は、研修内容の授業へのさらなる定着と100人規模の集客を目指したセミナーを5地域（金沢、福岡、大阪、仙台、東京）で開催した。



金沢星稜大学でのセミナー風景

（平成28年5月28日）



仙台セミナーでの模擬授業の風景

（平成29年2月18日）

③ 情報モラル指導評価指標開発のための事業

<http://www.japet.or.jp/ActivityReport/moraltest/>

近年、スマートフォンやゲーム機の普及とSNSや無料通話アプリの登場に伴い、児童生徒のスマートフォンの保有率が上がっている(1)。特に、高等学校の生徒は約96%が保有しているが、生徒自身、保護者ともその利用についてルール等を決めていないという現状があり、その結果、コミュニティサイト等での被害が増えている。

これまで情報モラルの指導を充実させるために、「ネット社会の歩き方」教材を開発するなど、情報モラル教育の指導者を育成してきた。これにより、多くの児童生徒が情報モラル教育を受ける機会が増え、その知識を身につけつつある段階に至ったと考えている。しかし、その知識がどの程度定着し、児童生徒がネット社会で遭遇するさまざまな場面を生き抜いていけるのかを客観的に測定する手段は、現在までに、まだ存在していない。

本事業では、情報モラル指導評価指標を開発することを目的とする。具体的には、児童生徒がネット社会を生き抜いていくためには、どのような知識や対応能力が必要なのかを明確にし、それを測定する手段として、小・中・高等学校の児童生徒を対象とした「(1) テスト問題の開発」を行う。さらに、開発した問題を用いて「(2) 情報モラル検定試験の実施」を可能にするとともに、情報モラルに関する能力を項目反応理論に基づいて推定するためのC B T (Computer Based Testing) である「(3) 情報モラル適応型テストの試作」を行った。



教育の情報化推進フォーラムでの研究調査発表の様子

2 予想される事業実施効果

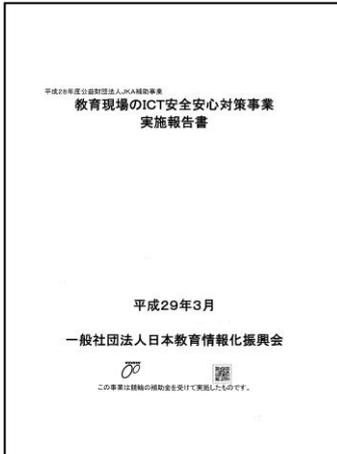
身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒がSNSや無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT安全安心対策事業」を展開している、この活動は広く公開されているため、教育界だけではなく、保護者への啓発としても有効であり、地域、家庭での安心安全への意識を高めることができる。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

① 教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書



教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書

(http://www2.japet.or.jp/jkahojo/H28_hokoku.pdf)

教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書目次

目次	
第1章	1
情報モラル指導充実のための事業	1
1. 事業の目的	2
2. 作業項目とスケジュール/作業体制	3
3. セミナー開催	6
4. 成果発表会	19
5. まとめ	20
第2章	21
コミュニケーション力育成のための事業	21
1. 事業の目的	22
2. 作業項目とスケジュール/作業体制	23
3. セミナー開催	25
4. 学習教材開発	50
5. 成果発表会	51
6. まとめ	52
第3章	55
情報モラル指導評価指標開発のための事業	55
1. 事業の目的	56
2. 作業項目とスケジュール/作業体制	56
3. 成果	58
4. 成果発表会	62
5. まとめ	63

② ネット社会の歩き方ユニット教材 (<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>)



③ ネット社会の歩き方講師育成セミナーテキスト
「学習ユニット」教材 (zip形式ファイル)



(http://www2.japet.or.jp/net-walk/otona_all.html)

④ 情報モラルテストシステム

(<http://www.japet.or.jp/ActivityReport/moraltest/>)

・ ログイン画面

管理者-ログイン画面

学校コード	<input type="text" value="japetce c"/>
管理者パスワード	<input type="password" value="●●●●●●●●"/>

・ 先生用管理画面

先生用管理画面 使い方 ログアウト

:: 管理者-MENU

- A. 受検申請フォーム
- B. 受検パスワードの印刷
- C. 結果データの閲覧
- D. 問題システムダウンロード

・ 受験申請フォーム

先生用管理画面 メニュー ログアウト

:: A. 受験申請フォーム

● 受験申請をするとすぐに「管理者-MENU」の「B. 受検パスワードの印刷」から受検票を印刷することができます。

対象	小学生	中学生	高校生	合計
受験者数	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0

戻る 確認する

⑤ 情報モラルテストの案内チラシ

日本教育情報化振興会

情報モラルテスト CBTでの検定を開始しました。(無料)

本事業では、児童生徒がネット社会を生き抜いていくためには、どのような知識や対応能力が必要なのかを明確にするため、それを測定する手段としてテスト問題の開発を行いました。

テストはCBTで実施。各学校単位でお申込みいただくと、全校生徒の受検が可能です。

小・中・高等学校の校種別に情報モラル問題を用意しました。ご活用ください。何故間違えたのか、何処を間違えたか子どもに考えさせる内容になっています。何回でも挑戦していただけます。

本事業は公益財団法人 JKA の補助を受けて実施しております。

<<「情報モラルテスト」のお申込について>>

申込書ダウンロードサイト：<http://www.japet.or.jp/ActivityReport/moraltest/>

本申込書に必要事項を記入し、mail か FAX をお送りいただくと、学校コード・管理者パスワードを発行いたします。

*「学校コード」と「管理者パスワード」は、先生専用の WEB サイト「先生用管理画面」にログインするためのものです。「先生用管理画面」から生徒用受検 ID を発行し、受検結果を閲覧・CSV データをダウンロードすることができます。

詳細は「実施マニュアル」をご覧ください。

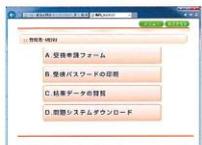
(「実施マニュアル」は登録完了後にお送りするメールにてご案内いたします)

<<情報モラル CBT 受験の流れについて>> (※画像はすべて参考イメージになります)



【ログイン画面】

- 送られてきた学校 ID と PW で先生用管理画面に入り
- テスト問題のダウンロードを行っていただきます。
- 実施の流れ (詳細は実施マニュアルに記載)



【先生用管理者画面】

- 先生用管理者画面から、試験システムをダウンロード
- 先生用管理者画面から、受検の申請を行う。(受検申請を行うと児童・生徒の受検 ID が印刷可能になります。)
- 先生用管理者画面から、児童・生徒の受検票の印刷を行う (生徒用 ID ・パスワードの発行)



【テスト開始画面】

- 生徒は生徒用 ID とパスワードを利用し問題のページに移動する。
 - 受検を実施する (受検の画面)
 - 生徒が問題を全て回答すると生徒の画面に回答結果が表示される
 - 生徒の成績は、先生用管理者画面から、CSV で管理可能です。
- (※各校の受験者情報は事務局は取得・保有はしません。各校にて管理願います)

事務局：一般社団法人日本教育情報化振興会 e-mail:info@japet.or.jp

⑥ 教育の情報化推進フォーラム（レジメ集）



JAPET&CEC 成果発表会
平成28年度
教育の情報化推進フォーラム

<http://www.japet.or.jp/>

テーマ 次期学習指導要領改訂に向けて

開催日時 平成29年3月3日(金) 11:00~17:40(開場 10:00)
10:00~18:00(最新教育ICT展示)
3月4日(土) 9:00~15:00(開場 8:40)
9:00~13:30(最新教育ICT展示)

開催場所 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟

主催 一般社団法人 日本教育情報化振興会

後援

文部科学省	経済産業省
総務省	東京都教育委員会
神奈川県教育委員会	千葉県教育委員会
埼玉県教育委員会	全国都道府県教育委員会連合会
全国市町村教育委員会連合会	全国都市教育長協議会
全国町村教育長会	全国連合小学校長会
全日本中学校長会	全国高等学校長協会
全国特別支援学校長会	日本私立小学校連合会
日本私立中学高等学校連合会	全国高等学校情報教育研究会
独立行政法人情報処理推進機構	公益財団法人学習ソフトウェア情報研究センター
一般社団法人電子情報技術産業協会	ICT CONNECT 21
日本教育工学協会	日本教育工学会

論文例（分科会A2：タブレットスマホ時代の情報モラル教育実践上の課題と進め方
〔情報モラル指導充実のための事業〕）

タブレットスマホ時代の情報モラル教育実践上の課題と進め方
～ ネット社会の歩き方 ～

専門教育大学大学院 准教授 藤村 一雄
岐阜県立大学 教授 石原 一彦
岐阜県立大学 教授 橋本 健二
エンゼル学園 学習支援センター長 藤原 謙子
東京都立国立教育支援センター 准教授 渡辺 洋和
甲府立第二中学校 校長 西田 光昭

キーワード 情報モラル、スマホ、学習指導要領、保護者

おわりに
中学校区内の小学校と連携した中学校が連携し、高認性のある学習プログラム開発や情報モラル教育活動などを行うことで、体質的に一貫した情報モラル教育の実現を目指す。

内容 【中心となる課題（テーマ）】
・ 小学校一貫型教育の実現を目指す
・ 中学校区連携推進協議会「情報モラル推進グループ（仮称）」を設立する
・ 小学校一貫型教育の実現を目指す
・ 中学校区連携推進協議会「情報モラル推進グループ（仮称）」を設立する
・ 小学校一貫型教育の実現を目指す
・ 中学校区連携推進協議会「情報モラル推進グループ（仮称）」を設立する

視覚化するコンテンツの例



図表 2 役員一覧（役員表は別紙五十ページ）

所属	氏名	役職	備考
岐阜県教育大学大学院	藤村 一雄	准教授	
岐阜県立大学	石原 一彦	教授	
岐阜県立大学	橋本 健二	教授	
エンゼル学園	藤原 謙子	学習支援センター長	
東京都立国立教育支援センター	渡辺 洋和	准教授	
甲府立第二中学校	西田 光昭	校長	
岐阜県立大学	藤村 一雄	准教授	
岐阜県立大学	石原 一彦	教授	
岐阜県立大学	橋本 健二	教授	
エンゼル学園	藤原 謙子	学習支援センター長	
東京都立国立教育支援センター	渡辺 洋和	准教授	
甲府立第二中学校	西田 光昭	校長	
岐阜県立大学	藤村 一雄	准教授	
岐阜県立大学	石原 一彦	教授	
岐阜県立大学	橋本 健二	教授	
エンゼル学園	藤原 謙子	学習支援センター長	
東京都立国立教育支援センター	渡辺 洋和	准教授	
甲府立第二中学校	西田 光昭	校長	

3 実践内容
3-1 中学校区での小中連携による情報モラル指導プログラム
岐阜県立大学大学院 准教授 石原 一彦

実践事例（朝の会での実践）



内容 【学習可能な取組（アクション）】
1. 「情報モラル教育の意義」に関する「意識の調査」もしくは「学習指導要領」の「総合的な学習の時間」について、小学校一貫型教育の推進が求められる理由を話し合う。
2. 各委員の意見がまとまらないうちにネットに関する課題を話し合い、それらをまとめて中間報告を行う。中間報告は、出席（もしくは出席者）でそれらの課題を話し合いつつ、修正してまとめる。小学校に送り出す。アフレコ機能を活用した発表や質問なども行う。
3. ICT 実習室による児童向けの校内研修会を実施。授業による児童向けの情報モラルの授業を実施。
4. 研修会による保護者向けの情報モラルの授業を実施。
5. 研修会による保護者向けの情報モラルの授業を実施。

3-2 事業はコンテンツよりも重要な
情報モラル教育推進協議会 藤村 一雄
ネット社のセミナーやワークショップは、グループでの情報交換から始まる。その後は、個別に実施する。セミナーやワークショップの開催は、事前にコンテンツの作成や研修会や授業の準備を要する。
JAPET&CECのコンテンツの多くは、元の出席者や講師に提供される。ところが、研修会では、事前にコンテンツの作成や研修会や授業の準備を要する。
○なにかが大切ということがないままの準備の電子メール
○講師がスマホの持ち込み
○対応した講師の発表の準備を要する
○ネット社
○小学生SNSで知り合った人に誘われて家出
○中学生SNSで知り合った人に性的な関係
○ネット
○SNSのSNSで知り合った人に誘われて家出
○講師がSNSで知り合った小学生の女の子が誘

3-3 ネットの課題
・ ストーカー被害
・ SNSの悪用
・ 詐欺被害
・ 個人情報の流出
・ 個人情報の流出
・ 個人情報の流出

3-4 大學生が「情報モラル教育」をどう捉えているか
・ 大學生への質問紙調査より
・ 大學生への質問紙調査より
・ 大學生への質問紙調査より

(2)(1) 以外で当事業において作成したもの
特になし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 一般社団法人日本教育情報化振興会

(イッパンシャダンホウジンニホンキョウイクジョウホウカシンコウカイ)

住 所 : 〒107-0052

東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル 8階

代 表 者 : 会長 赤堀 侃司 (アカホリ カンジ)

担当部署 : 調査・研究開発部 (チョウサケンキュウジギョウブ)

担当者名 : 総務部担当部長 赤松伊佐代 (アカマツ イサヨ)

電話番号 : 03-5575-5365

F A X : 03-5575-5366

E-mail : akamatu@japet.or.jp

U R L : <http://www.japet.or.jp/>